

## 第 18 回横須賀市社会福祉審議会福祉専門分科会議事録

- 1 日 時 令和 5 年 7 月 11 日（火） 10：00～11：30
- 2 場 所 横須賀市役所 消防庁舎 4 階 災害対策本部室
- 3 出席委員 ◎玉川委員、○橋本委員、青木委員、石田委員、磯崎委員、  
岩澤委員、井上委員、白井委員、豊島委員、松尾委員  
欠席委員 渡部委員  
◎…分科会長 ○…分科会長職務代理者
- 4 事務局 民生局福祉こども部福祉総務課 清水課長、栗原主査、清家係長、  
下田担当者、中山担当者  
地域福祉課 椿課長、岩崎主査  
市民生活課 山野井課長、杉田主査  
地域コミュニティ支援課 村野課長  
横須賀市社会福祉協議会 杉山担当者
- 5 傍聴者 1 名
- 6 開 会  
進行：福祉総務課 栗原主査
- 7 定足数報告  
定数 11 名中、10 名の出席があり、横須賀市社会福祉審議会条例第 4 条第 4 項の規定により、会議が成立している旨を報告した。
- 8 一般傍聴報告  
傍聴者は 1 名である旨を報告した。
- 9 議 事  
(1) 横須賀市地域福祉計画関連事業の実施状況について  
ア 説明  
事務局から資料 1 に基づき、横須賀市地域福祉計画関連事業の実施状況について説明した。  
イ 質疑

(分科会長)

本審議会では毎年、地域福祉計画関連事業の実施状況について市の方から、このような形で報告を受けていたと聞いているが、ただいまの説明に対して、ご質問やご意見があればお聞かせ願いたい。

(岩澤委員)

今回の資料について、7点質問がある。

1点目、2ページ『計画書掲載内容 施策の展開』欄の『新』や8ページ『取り組み状況③状況・実績』欄の『拡』の意味合いは何か。

2点目、2ページ『取り組みの状況 状況・実績』欄の【民生委員数の推移】について、年々充足率が下がってきているという状態が続いているが、現場で一生懸命働いていただいている民生委員の方に、何か困りごとはないか。

3点目、5ページ『取り組みの状況①状況・実績』欄の『その他1-(1)-③-取り組みの状況②と同じ』とあるが、この表現はどこを指しているのか。別の形での表現の方が分かりやすいのではないか。

4点目、7ページ『取り組みの状況①状況・実績』欄の『ケアプラン点検 集団検討会』の記載事項が『令和5年3月6日(月)(予定)』とある。7月11日現在で考えると、日程については確定しているのではないか。

5点目、『介護職員出前講座を実施』という記載についても、『令和5年2月現在、4校実施予定』とあるが、確定した数字を使用した方がいいのではないか。

6点目、7ページ【子ども関係】黒丸2点目、『白峰学園横浜女子短期大学 保育センターの運営』とあるが、『運営』とはどういう意味なのか。

最後7点目、8ページ『取り組みの状況②状況・実績』欄の【子ども関係】について、待機児童対策実施のために細かく記載をいただいているが、そこまで細かく記載をしなくてもよいのではないか。

(事務局)

まず1点目、『新』・『拡』といった記載についてご説明すると、それぞれ『新規』・『拡充』の省略形である。

『新』とは施策の展開として掲載はしていたものであるが、今回、事業として新たに行ったものについて、『新規事業』ということで『新』と記載している。

『拡』とは、事業の拡充についてのことであり、事業自体は元々行っていたが、例えば対象者や量を増加するなど事業内容が拡充された場合、『拡』と記載している。

続いて2点目、民生委員の充足率が低下している中で、具体的な困り事が出ているかどうかという質問については、事務局あてに届いている範囲で申

し上げると、はじめに民生委員の欠員について挙げられる。

民生委員がいない区域については、欠員という扱いになり、例えば隣の区域を担当している民生委員や欠員区域の町内会長がカバーするといった形で現状、対応していただいている。

カバーをする方法はその区域ごとに応じて様々であるが、いずれの場合にしても、カバーをする民生委員にとっては、自身が担当する区域が通常よりも増えるので、かなり負担が大きくなっていくというのがある。

もう1点も欠員区域をカバーする民生委員に関するものになるが、馴染みがない区域をカバーすることによる心理的な面での負担が挙げられる。

現在、民生委員は、町内会長・自治会長による推薦によって委嘱しているが、欠員区域をカバーするとなると、自身が所属している町内会等以外の場所を担当することもある。

そうすると、そもそも住人の顔や名前を知らない町内を担当することになり、地域の実情が分からない状態で関わり持つことがあるという話を伺うことがあるので、そういった心理的な面での負担が大きいのではないかと感じている。

市としても、民生委員の担い手をどう見つけるのかということ以外に、民生委員の負担を少しずつでも解消できないかと考えているところであるが、なかなか良い解決策が見つからないといった状況である。

民生委員の活動内容は、大きく分けて2点あると考えており、1つは一人暮らしをしている高齢者の方の申請といった手続きに関係する活動、もう1つが高齢者の方の日頃の見守り活動である。

手続きに関しては、例えば直接市役所の窓口書類を提出いただくというように、負担を少なくすることができないかといった検討をしているが、その一方、見守り活動に関しては、市役所がということではなく、ご近所同士の顔が見える日頃の関係の中で見守りがある、という在り方を目指しているので、市役所が代わることは難しいと考えている。

そのような状況の中で例えば、横須賀市社会福祉協議会の方で実施されている社会福祉推進委員と連携をしながら、地域の中で対応していただくといったことが1つの対応策になるのではないかと考えている。

3点目については、資料5ページの『①地域の担い手の育成・参画』の中の『取り組みの状況①』で『◎地域の支え合い活動に関する担い手の養成』の一番下の『その他1-(1)-③-取り組みの状況②と同じ』という表記が、分かりにくいのではないかとのご質問をいただいた。

この表記の意味合いとしては、同資料1ページに記載がある、『1 丸ごと受け止める福祉のまちづくり』の『基本目標(1)地域の支え合い機能の強化』から続いて、資料3ページの『③地域福祉活動のネットワークの形成』

の一番下『取り組みの状況②状況・実績』欄に記載されている内容と重複するため、資料5ページのような表記とした。

しかし、今回分かりにくいというご意見をいただいたので、記載の方法については改めて検討する。

4点目、5点目合わせて、資料7ページ『ケアプラン点検集団検討会』や『介護職員出前講座』の状況・実績に関する表記が適切でないのは、事務局側の確認不足である。こちらについては改めて、所管課に確認した上で正しく資料を訂正したい。

続いて6点目、資料7ページ【子ども関係】の黒丸2つ目、『白峰学園横浜女子短期大学保育センターの運営』についても事務局の方で詳細を把握していないため、先程と同様、所管課に確認をした上で、回答させていただきたい。

最後7点目、資料8ページ『取り組みの状況②』【子ども関係】の黒丸1つ目、『待機児童対策を実施するためには保育を提供する場所と人材の確保が必要となる』という表記について、岩澤委員のご指摘通り、この記載は特に必要ないかと思うので、削除する方向で検討したい。

(分科会長)

1点、『新規』・『拡充』の表記について確認したい点がある。計画の策定になかったものは『新』の表記があるという話であったが、これは計画策定時と比較してなのか、または令和4年度に新規事業として始めたものなのか、新規事業の時点について確認をしたい。

(事務局)

説明が不足しており、申し訳ない。『新』・『拡』と表記があるものは、前年度と比較をしてということになるので、令和3年度と令和4年度を比較した時に、令和4年度に新規事業または事業の拡大・拡充をしたという意味合いになる。

(分科会長)

承知した。令和3年度の報告と比較して、令和4年度で新しい事業、内容を拡充した事業についてが、『新』・『拡』という表記で表れていると感じた。

### (3) 市民アンケート調査結果（速報）について

#### ア 説明

事務局から資料2に基づき市民アンケート調査結果（速報）について説明した。

#### イ 質疑

(分科会長)

本日は、速報値として 571 件のデータを集計しているが、ご意見やご質問があればお聞かせ願いたい。

(井上委員)

アンケート調査の対象者が無作為抽出で選ばれているということであるが、これは地域のバランスが考慮されているものなのか、つまり地域の特徴がこのアンケートから読み取ることが出来るつくりになっているのか、伺いたい。

(事務局)

アンケートの 6 ページ、問 6 に回答者の住まいの地域に関する設問と結果の記載がある。

まず、今回のアンケートによる無作為抽出の方法については、横須賀市の約 40 万人の人口に対して、まず、地域ごとにどれぐらい住んでいるかといった比率を出している。

それに対して、年代ごとに同じサンプル数になるように割り返しており、さらにその中で男女同数になるように無作為抽出をかけている。

よって、こちらに記載のある地域ごとのサンプル数ということでは、ほぼ現在の横須賀市の地域ごとの住まいの状況と、似通った数値であると捉えている。

(井上委員)

横須賀が持っている特徴や課題、またはニーズといった点が地域ごとに違ってくるのではないかと思ったので、地域に関するクロス集計もぜひ見てみたいと思った。

(分科会長)

ただ今、井上委員からもあったようにクロス集計で、こうした結果も今後出していくべきだという点があれば、委員の方々からご指摘いただきたい。

(石田委員)

アンケートの 12 ページから 13 ページにまたがる、問 16、問 17 の社会福祉推進委員について不思議だと思ったことがある。

社会福祉推進委員は、民生委員と比較するとかなり知名度が低いように思うが、問 17 に対する回答が、民生委員より社会福祉推進委員の方が倍くらい多い回答となっているが、これは何故だと思うか。

(事務局)

正直に申し上げますと、現時点では、今回の回答がどういう意味を持って数字として示されているのか、事務局としても解釈に苦しんでいる状況である。

今回、アンケートの集計については、委託業者の方で入力してくれた数字を基に分析を行っているところであるが、ご指摘いただいた項目に関しては、石田委員からご指摘いただいたように、民生委員より知られていないという結果が出ている社会福祉推進委員に、災害などの緊急時における連絡先を把

握しておいて欲しいということになるので、今回のような数値は本来出ることではないのではないかと思います。よって、実際に回収したアンケート調査票を見ながら、精査をしたいと考えている。

また、17 ページの問 25、問 26 についても補足で説明させていただきたいことがある。

本来は、右肩に『n=571』という、今回のアンケートの母数が示されるはずだが、問 25 は『n=569』、問 26 の方は『n=570』となっている。数値がずれているので、こちらについても精査をしたいと考えている。

#### (4) 地域別意見交換会の開催日程及び実施方法について

##### ア 説明

事務局から資料 3 に基づき、地域別意見交換会の開催日程及び実施方法について説明した。

##### イ 質疑

(白井委員)

昨日案内が届いたので確認すると、参加希望者は各団体から 3 名とあったが、参加の上限人数はどのくらいでお考えか。

(事務局)

上限人数については、各会場 20 人程度が入れる会場を予約している。

基本的には各団体 3 名までということをお願いをしているところではあるが、それはあくまでも会場のキャパシティの問題であるので、例えば 3 人以上の参加を希望する場合は、事務局にご相談いただければ、会場のキャパシティが許す限り、皆様にご参加いただきたいと思いますと考えている。

(石田委員)

個別で事務局に依頼をしたことであるが、私自身が所属する横須賀市障害者施策検討連絡会も今回の地域別意見交換会に参加したいと希望を伝えさせていただいた。

前回の分科会の中で、障害福祉においては、地域福祉というと地理的なものではないという側面がどうしても出てきてしまう、地域福祉に対して少し違うのではないかと感じるがあったとお話しさせていただいたが、防災や危機管理といった観点で考えると、やはり地理的な要素も非常に大切だと感じる。

今回の地域別意見交換会の開催目的の 1 つに、地域で活躍されている方たちのネットワークづくりということがあったので、横須賀市障害者施策検討連絡会を構成するメンバーに声を掛けて、地域のコミュニティの中で生活している一員として、何ができるか考える契機としたいと考えている。

我々の団体はどちらかという、支援をお願いすることが多いかもしれないが、ここの地域に生活している者として、他の団体の方と顔を繋ぐことができた、という思いがある。

我々も何かできることを教えていただくなど、地域の中に生活しているものとして、ご挨拶させていただけると幸いである。

参加の方法について、本来であれば全市にまたがって活動をしているが、今回は、我々も地域ごとに参加したいと考えている。

各地域にある、作業所や施設、親の会から出席して、顔合わせをさせていただきたい。

これから日程調整を始めるので、それぞれの地域でどのくらい参加できるかまだ分からないが、この場を借りて報告させていただく。

(事務局)

石田委員からお話しあったように、すでにその旨のご相談をいただいております、事務局としてもやはり地域で支え手と担い手の垣根を越えて、お互いにどういうふうにしていくか考えることが、この地域福祉の根幹かと考えているので、ぜひご参加いただきたいと、事務局からもお願いしたところしたところである。お互いを知らないことには始まらないので、まずは自身の地域にどういう方がそこにいて、どういうことで困っているのかといったことや、困っていることに対して自分たちとしてはこういうことができるといった、地域福祉に取り組むためのまず第一歩、お互いを知るところからであるかと思っています。

そういった意味も含め今回の地域別意見交換会は、各団体の長や団体での参加と限定せずに、地域の皆様からもご参加をいただけるような仕組みにしている。

そのために今回、広報掲示板にて地域別意見交換会の開催をご案内するポスターを掲示している。

ポスターをご覧になって、地域別意見交換会に参加いただける方が1人でも2人でも各地域で出てきていただければありがたいと考えている。

(分科会長)

今回、ワークショップ形式で地域別意見交換会を開催するので、要望等を公式の場で表明するという事よりも、地域の中での気づきや課題を共有することが大切である。

本日予定されている議事は、全て終了したが、全体を通じて何かご意見やご質問がある方がいれば、お聞かせ願いたい。

(青木委員)

本日、初めて分科会に参加したので、町内会関係の視点から感想を述べさせていただきます。

まず、アンケート調査の速報値について意外だったのは、9ページの町内会・自治会の加入率について。

73.7%もの人が町内会に加入しているということになるので、意外と加入しているのだと思った。

続く問12では、町内会に加入していない理由について集計があるが、加入しない人にとってメリットがないということ、また加入方法が分からないという点については、我々町内会の責任もあるかなと思った。

いかに町内会に加入していただけるかということで、連合町内会全体でも考えているところであり、7、8年前から転入者の方向けに市の窓口にて、転入手続き時に町内会加入への案内をすることを始めたがやはり楽しい催し物をするのが一番なのではないかと考えている。

そうすることによって皆さんが町内会のことを知り、興味を持ってくれた人が、町内会の役員等をやっていただくというところに繋がるのではないかと期待を込めて、各町内会が努力しているところである。

そして、民生委員の選出に関しては別途、連合町内会のほうから市長あてに要望書を提出したという経緯があるが、町内会長の担い手がいない1つの理由として、民生委員候補の選任がある。

民生委員候補者を推薦しなくてはならないから、町内会長を引き受けたくないといった声があることや、中には町内会長が民生委員を兼務しているところもあって、民生委員の推薦に関しては苦勞している。世間一般に、民生委員は大変だという声があるから余計になりたくないと思う方もいると思う。

昔に比べれば、地域包括支援センターの存在があることや、様々な面でかなりの負担は軽減されていると個人としては感じているが担い手がいないという実状を述べさせていただいた。

(分科会長)

地域の実情に応じたご意見をいただいた。様々な地域でいろいろな実状があり、それぞれ違いがあるかと思うが、そうした中で効果的な取り組みをやっているところもあれば、そういう話を聞きづらいところもあるかもしれない。これからアンケートをまとめる中でもう少し見えてくるものがあるかと思うので、最終の集計結果を待ちたいと思う。

(事務局)

本日は議事の(1)から(3)までご議論をいただいた。

(1)では計画関連事業の実施状況についてご質問いただいたので、その点については修正したものをご報告させていただく。

(2)では、市民アンケートの調査結果速報を報告した。

地域別にニーズが異なるのではないかとというようなご意見をいただいたの

で、地域別のクロス集計等も行っていきたいと考えている。しかし、地域別にクロス集計を行うと母数が大幅に減ってしまう地域も生じる可能性がある。地域の実情を把握できるような母数にはならないかもしれないが、地域にお住まいの方の実感を裏付けるような、地域の傾向が見えるような数字となればと考えている。

最後に（３）では、地域別意見交換会の開催日程及び実施方法について報告し、ご承認をいただいた。加えて、ご参加の意向をいただいた委員もいらっしゃるので、参加した皆さんに参加してよかったと感じていただける地域別意見交換会にできればと考えている。

## 10 閉会